

# 学園

# だより

平成22年7月1日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話 (0867) 66-3651

FAX (0867) 66-3651

E-mail jerko@mx4.et.tiki.ne.jp

<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>



第46期生 ハーブ園にて



校長 上原逸史

# 巻頭の言葉



討を行っています。酪農  
 大学の主要財源は第一、  
 第二牧場で生産される牛乳  
 の販売収入です。

しかし、ここ数年の酪農

情勢は、バターや脱脂粉乳

などの在庫増により二〇〇

七年度は減産型の生乳計画

生産が実施されましたが、

新興国及び産油国の国内乳

製品需要の高まりや、オセ

アニアにおける大干ばつに

より海外乳製品の価格が高

騰し、国産乳製品への需要

は高まり、過剰であった在

庫は、二〇〇八年度当初に

品不足になることが危惧さ

れ、二〇〇八年度は前年度

とは反対に増産型の生乳計

画生産となりました。しか

し、二〇〇八年九月のリー

マンショックにより世界的

な金融危機に落ちいり、景

気低迷が続き牛乳・乳製品

の消費は減退し、平成22年

度の生乳計画生産は減産に

なりますが、今年度は国際

市場の動向を念頭においた

中期的な需要創出策が新設

され、急激に生乳生産基盤

を縮小させないような手法

がとられています。今後、

どのような状況になるかわ

かりませんが、酪農大学校

も各牧場の飼養管理、牧草

生産等について見直し改善

策を講じ効率的な牧場運営、

授業料、カリキュラム、職

員数、新たな収益事業等

について検討し、自主財源

確保を図っていきたくと思

っています。

さらに、教育目標に掲げて

います優秀な酪農後継者養

成だけでなく、雇用を前提

として規模拡大を行った酪

農経営者の補佐役となる優

秀な担い手の養成、そして

現在行っている訓練のよう

に酪農に対して知識並びに

体験の少ない人たちを短期

間で教育していく訓練校と

しての機能も取り入れた経

営も検討し、時代に沿った

魅力ある酪農大学校にして

いかなければと考えていま

すので、関係者の皆様方の

限りないご支援とご指導を

賜りますようよろしくお願い

申し上げます。

今冬の蒜山の雪解けは早

かったですが、春になって

も冷える日が続き牧草の成

長が遅く、一番草の収穫及

びトウモロコシの播種が遅

れ収穫に影響しないか心配

しております。

今年度の入学生46期生は29

名で、四月六日に大勢のご

来賓の出席の元に盛大に挙

行しました。

また、今年度から失業者に

職業訓練の機会を設け、一

さて、前年度の学園だよ

りで少しふれました「岡山

県行財政構造改革大綱」で

示されました酪農大学校に

対しての助成のカットによ

る自主財源確保に向けて検





卒業生  
酪農との出会い

第七期

長恒 泰治

学生の皆さん、同窓生の皆さん、初めまして。私は蒜山で酪農をして

いる第七期卒業生です。学生当時、我が家は酪農家ではありませんでした。耕種農家の長男であつた私は、高校卒業後は後継者として就農する予定でしたが、二年間

くらはい同じ農業でも他の勉強も良

いかなと思ひ、地元の酪大へ入学したのです。初めて接する乳牛の大きさにビツ

クリし、また、同級生の酪農に対する熱い心意気に感動し勉強していく中で私も将来は酪農をやりたいと次第に思うようになりました。

酪農に魅力を感じていましたので、休みはなくても苦にならず頑張った

もので。父母には大変苦労をかけたので、今改めて「ありがとう」と感謝したいです。

その後牛舎を新築（総合施設資金の借り入れ）、少しずつの機械設備

が整い、乳量の増加もあり、楽しく希望の持てる産業であると思えるようになりました。

数年後には結婚もして家族も増え、協力し合いながら酪農專業にな

ったわけですが、その後、父が怪我により寝たきりになり母はずつと付

き添い、労働力が妻と二人きりになった時はさすがにこたえました。子供達が小さいながら現実を理解して、少しずつ協力してくれ一段と家族のチームワークが堅くなり仕事に

精が出たものです。今は牛舎自体も老朽化しています。増改築・整備も装えて現在に至っております。家族の協力のもと私達夫婦の仕事に対する一生懸命な気持ちで子供達と接したことが功を奏したのか、第一子の長女は畜産関係の貿易商社に入社、東京勤務で頑張っています。

ではありますが、真剣に取り組んでくれます。改めて畜産業、とりわけ酪農業を理解し、夢と希望を抱いているのだと感心させられます。将来

においても酪農産業が益々発展することを念ずる次第です。ちなみに我が家の息子も来年は良き伴侶を得る

予定です。我が牧場も次なるステップへ向け、大なる礎を築いてほしいものです。今度は私が良き理解者

となるよう努力したいものです。最後にになりましたが中国四国酪農

大学に於かれましたも益々の御発展をお祈り申し上げます。

在校生  
二年生になつて



第四十五期生

横山 直人

この中国四国酪農大学校に入学して期待と不安の中、早くも一年の月

日が流れました。入学当初は、これから始まる新生活に対してのわくわ

くした気持ちと、本当にこの学校で、新しい仲間と付き合っていくことができるのか、実習にはついていくことができるのだろうか、というドキドキした気持ちでいっぱいでした。

して、なかなか仕事をこなせない私

たちを指導し、一つ一つちゃんと理解するまで丁寧に教えてくださった先生方や、先輩方、また、心の支え

となつてくれた両親のおかげで、無事なんとか乗り越えることができました。普段は、なかなか素直に伝えられませんが、心から感謝していま

す。四月に、四十六期生が入学し、指導されていた立場から、指導する側

に変わり、先輩方の偉大さを痛感しました。しかし、指導する立場になったことで見えてくるものも多く、

こうすればさらに効率よく作業が進むなどといったことを、先輩から学びました。今年は、新入生二十九名

と私たち四十五期生の倍以上の人数がいるため、作業の幅が大きく広がり、なかなか私たちではできなかった仕事にも着手できています。思い返せば、この一年間さまざま

なことがありました。第一牧場では、初めて目にした繋ぎ飼ひ方式のバイ

らないことも数え切れないほどあるので、まだまだ勉強を重ねたいと思います。

学校が終わってから友人たちと夜釣りに行ったり、町に出かけたり、

冬には連日連夜スノーボードに通ったり、どれも自分にとってとても大切な思い出となりました。これから私は、研修生として実際の酪農家の

元で修行が始まります。今は、期待よりも不安な気持ちが強いですが、一年間酪農大学校で学んだ知識と技術を活かして、研修農家で更なるレベルアップを図りたいと思います。

私には夢があります。その夢を叶えるための、少しでも糧となるよう一生懸命がんばりたいと思います。

研修が終わわり、学校に帰ってきた際に、変わったといわれるくらいになりたいです。これからも、色々な壁が待ち構えているとは思いますが、決して目を背けることなく前を向いて進み、将来の酪農業界に貢献できるようなひとになりたいと思います。

最後に、仲間たちと一緒にいられる残りわずかとなる時間を有意義に過ごしたいと思います。



# 第一牧場だより



初夏の候、卒業生の皆様

にはお元気でご活躍のこと  
とお喜び申し上げます。寒  
く曇天が続いた初春から一  
転して、5月末頃からよう  
やくカラッとした過ごしや  
すい天気恵まれ、一番草  
の刈り取りも無事終了した  
ところですよ。

宮崎県の口蹄疫騒動につき  
ましては、畜産農家の方々  
をはじめ、関係する皆様方  
のご苦勞を察するに余りあ  
り、ただただ早期の終息を  
祈るばかりです。また、状  
勢が落ち着いた後には、宮

崎県の畜産の復興になんら

かの協力をさせたいいただき  
たいと考えている次第です。

さて、第一牧場には、  
様々な年代に造られた古い  
牛舎が点在しています。あ  
る時は育成牛舎に、またあ  
る時は肥育牛舎として、は  
たまた分娩牛舎としてなど、  
それぞれ時代とともに様々  
な用途で活用されてきたも  
のですが、牛も変わり、飼  
育方法も変われば、当然牛  
舎も変えていかなければな  
りません。今年度は学生と  
ともにカウコンフォートと

作業性を考えながら、低コ  
ストで効果的な牛舎改善を  
行っているところです。  
昨秋の蒜山地区共進会で  
は、本校の出品牛がグラン  
ドチャンピオンの栄誉に輝  
きました。長年に渡る改良  
の成果がようやく花開き始  
めたところです。また、学  
生の出品技術の向上が伺え  
ます。北海道全共は延期に  
なってしまうましたが、全  
国の舞台に立てる牛づくり  
を目指し、学生ともども熱  
くなっているところです。

最後に、長年本学校に勤務  
され、平成19年3月に転  
勤された樋口さんが、県を  
退職され、今年度から臨時  
職員として第一牧場に戻っ  
て来られました。今年度は井  
上経営課長、関場長、樋口  
技師の3人で担当しており

ますので、よろしくお願  
いします。また、お近くにお  
寄りの際には、第一牧場に  
お立ち寄りいただければ幸  
いです。



# 第二牧場だより



長かった冬も終わり、蒜山にもやっと色鮮やかな季節がやってきました。卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

蒜山では四月に入ってからもなかなか春らしい日が続かず、せつかく咲いた桜に雪が積もるといふ日もあったほどでした。そんな寒さのせいで牧草も思うように伸びず、初放牧もゴールデンウィーク直前の四月二十八日に行いました。牛たちも放牧を楽しみに待っていたようで、牛舎から飛び出して行った勢いそのまま

に草地でも元気に走り回っていました。前日は台風を

思わせるような激しい風雨だったにもかかわらず、初放牧は晴天に恵まれ、大山や蒜山三座を仰ぎ見ながらの放牧風景は、春の訪れを実感した瞬間でした。例年であれば、ふれあい広場にも育成牛を放牧している時期なのですが、今年度は国内で口蹄疫が発生していることもあり、現在ふれあい広場への放牧は見合わせております。

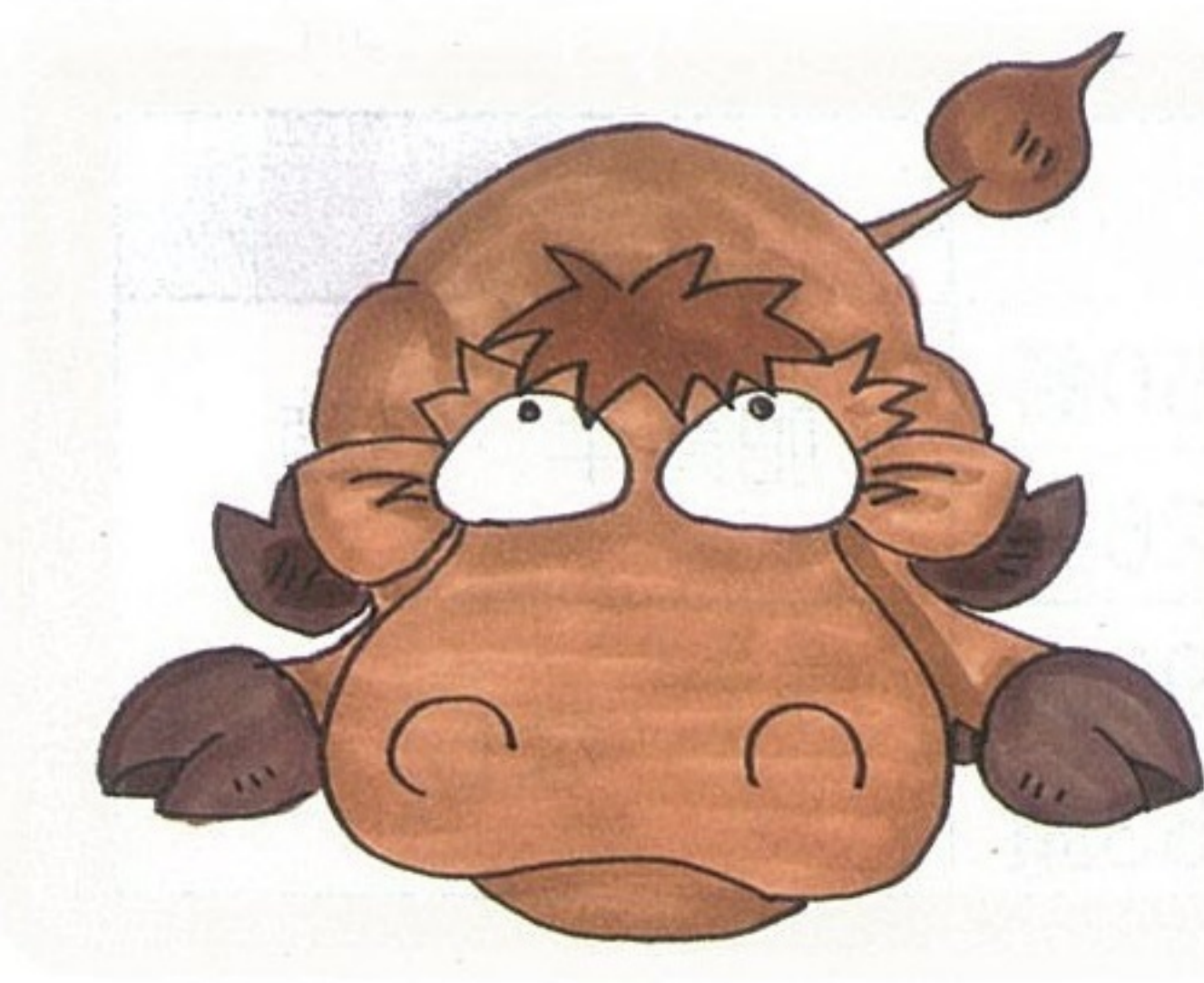
さて、毎年天候に悩まされる牧草や飼料用トウモロ

コシの収穫ですが、去年は、天気の間を縫いながら適期を逃さずに収穫作業をすることができ、昨年度のサイレイジ共助会においてロールベールサイレイジで金賞をいただけるほどの良質なサイレイジが得られました。収量こそ目標に達しませんでした。天気は左右されながらも良質なサイレイジが得られたことに職員一同ホッと胸をなでおろした次第です。今年も昨年にならぬように一生懸命頑張りたいと思います。

また去年は一日の出荷乳量が一〇〇〇kgを下回ることもありましたが、現在は平均で一三〇〇kg、多い日には一四〇〇kg以上を出荷

できるまでになりました。出荷乳量を維持するために、今後も乳房炎対策や飼養管理には力を入れて取り組んでいきたいと思っております。また、今年からバルク室にカレンダーを設置して、日々の乳量や牛の移動等を記録し、一目で乳量の変化が分かるようにしました。これによって、学生も日々の乳量の変化を気にかけるようになっており、これが一つの乳房炎対策につながればと願っております。

最後になりましたが、第二牧場は今年度より芦田場長の下、西村技師、竹井技師に加え、内部異動によって新たに加わった池田技師、村田技師の計五名で元気に楽しく頑張っています。卒業生の皆様、何かとお忙しいとは思いますが、学生時



代を過ごした蒜山に、そして酪農大学校にぜひ遊びにいらして下さい。職員一同、心からお待ちしております。

# 職員紹介

校長 上原逸史  
副校長 谷田重遠

(教務課長兼務)

## 総務課

課長 有木正人◎  
主事 有富英美

## 教務課

技師 長綱則之○  
(第二牧場から移動)

技師 岡崎奈々

調理員 谷口育子

調理員 小椋麗子

調理員 法花千恵美

## 経営課

課長 井上信治

## 第一牧場

第二牧場長 関 哲生  
臨時職員 樋口照夫◎

## 第二牧場

第二牧場長 芦田草太  
技師 池田良弘○

(第一牧場から移動)

技師 西村祐枝

技師 竹井晶子

技師 村田崇浩○

(教務課から移動)

○ 内部異動者

◎ 新職員

酪

大

行

事

い

ろ

い

ろ



オープンスクール



スキー教室



中国ブロックスポーツ大会

## 飼養頭数



	乳 牛		肉 牛
第1牧場	経産牛	50頭	肥育牛 3頭
	育成子牛	26頭	
第2牧場	経産牛	90頭	なし
	育成子牛	53頭	

牛に学ぶ。

牛を学ぶ。

平成二十三年  
度  
入学生募集  
集中!

中国四国酪農大学校

検索

<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>

財団法人 中国四国酪農大学校

〈資料請求先〉

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部632

Tel.(0867)66-3651(代) Fax(0867)66-3652